



岐阜県感染症発生動向調査週報

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

2017年第50週
(12/11~12/17)

平成29年12月22日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

- インフルエンザは前週より増加し、岐阜・関・可茂保健所管内で患者の報告が多くなっています。
- 咽頭結膜熱は、3週続けて患者報告数の多い状態が続いています。→トピックス
- 感染性胃腸炎は、岐阜市・岐阜保健所管内で多数の患者が報告されています。

■ 定点把握対象疾患の発生動向（インフルエンザ定点:87か所、小児科定点:53か所、眼科定点:11か所、基幹定点:5か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

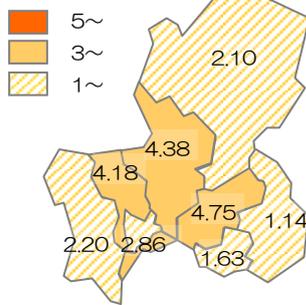
レベル	疾患名	基準	該当保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	なし		—
注意報レベル	なし		—

※定点当たり報告数が一定の基準を超えた場合、保健所単位で「警報・注意報レベル」を発信しています。

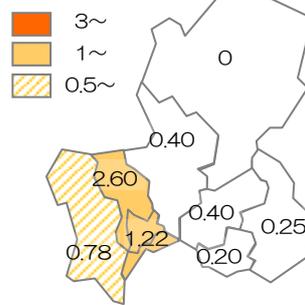
警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを、注意報レベルは流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

● 注意したい感染症の保健所別流行状況（地図中の数値は定点当たり報告数）

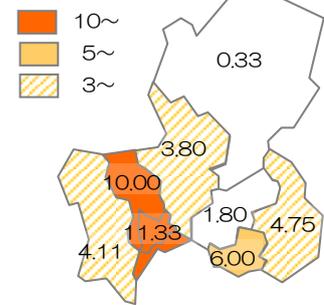
<インフルエンザ>



<咽頭結膜熱>

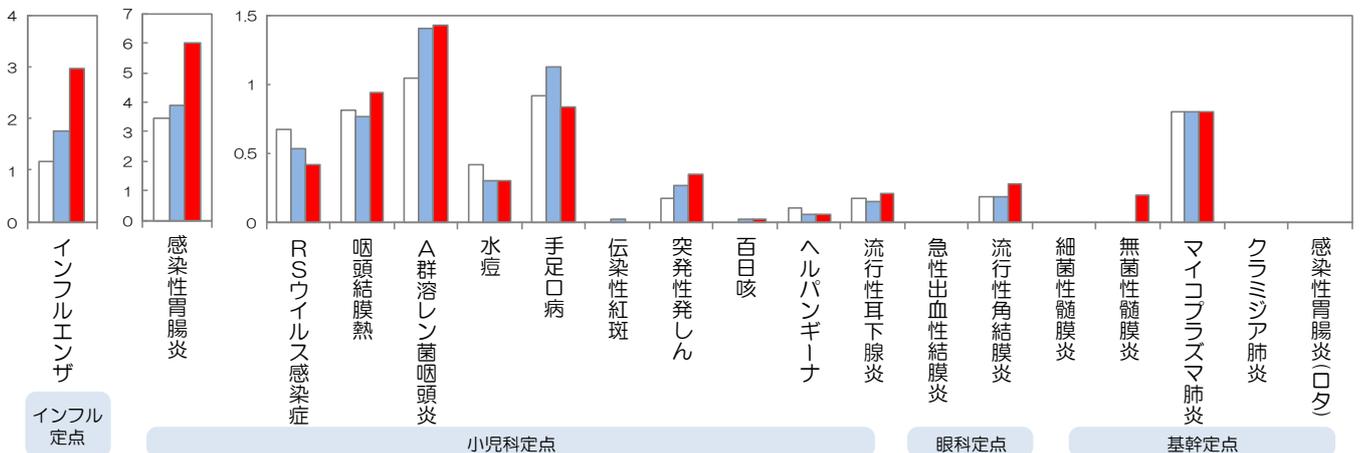


<感染性胃腸炎>



● 直近3週の推移

□ 前々週 □ 前週 ■ 今週（縦軸は定点当たり報告数）



■ 全数把握対象疾患の発生動向

● 今週届出分

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 7例
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1例
- 4類感染症：つつが虫病 3例、レジオネラ症 1例
- 5類感染症：侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例、梅毒 1例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターのHPをご覧ください。
感染症発生動向調査週報（IDWR） <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■ トピックス

● 咽頭結膜熱

◇ 今年は冬期も患者が増加しています

咽頭結膜熱は、夏期と冬期に流行がみられ、年によっては冬期に夏期より大きい流行がみられることもあります。

県内の小児科定点医療機関からの患者報告数の推移をみると、今年は夏に比較的大きな流行がみられた後、第48週以降再び患者数が増加しており、第50週は0.94人と、夏のピーク時を上回る患者数となっています。また、過去10年の同時期と比べて最も高い値となっており、今後の動向に注意が必要です。

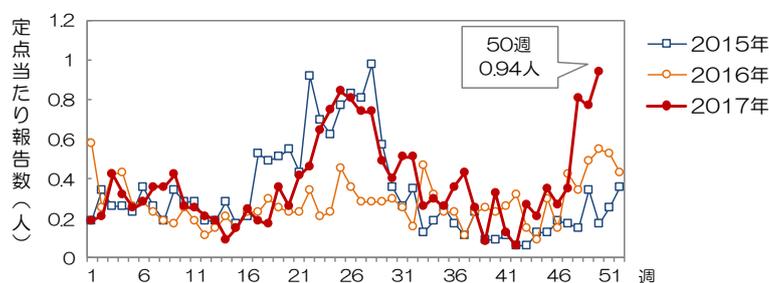
なお、患者の年齢は、1～4歳が多くなっています（2017年第40～50週）。

◇ 手洗い等の一般的な予防が大切です

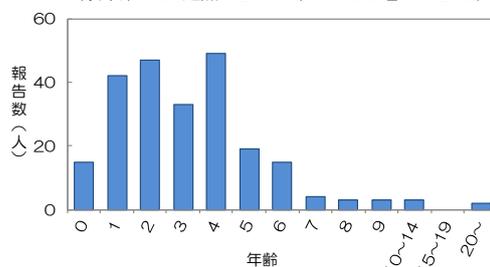
感染経路は、通常飛沫感染または手指を介した接触感染で、結膜または上気道からの感染です。

予防としては、感染者との密接な接触を避け、流水と石けんによる手洗いを励行するなど一般的な感染予防対策が重要になります。特に、好発年齢の幼児が集まる保育所、幼稚園等では日ごろから予防に努めることが必要です。

咽頭結膜熱患者報告数（岐阜県：53定点）



咽頭結膜熱 年齢別報告数
（岐阜県：53定点 2017年40～50週 n=235）



○ 咽頭結膜熱とは

アデノウイルスの感染により発熱、咽頭炎、結膜炎を主な症状とする小児の急性感染症です。5～7日の潜伏期間の後、発熱で発症し、全身倦怠感とともに、咽頭炎による咽頭痛、結膜炎に伴う結膜充血、眼痛、羞明、流涙等が現れ、3～5日間程度持続します。

○ 感染症法における取扱い

咽頭結膜熱は、感染症法において5類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約3,100か所（県内53か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。

届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。（保健医療課 HP）

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kansenshouhou-ki.jun.html>

岐阜県感染症情報センターHP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/>